

新しい幹事（まだ候補者）・委員の顔ぶれ

来年1月から任期が始まる、北海道地区の幹事候補者および各委員会委員が以下のように決まりました（敬称略）。

代表幹事 多田 旭男（北見工大）；会計幹事 岡崎 文保（北見工大）

幹事 服部 英（北大工ネ先）、吉永 裕介（北大地環研）、朝倉 清高（北大触媒セ）、大洞 康嗣（北大触媒セ）、向井田 健一（室蘭工大）、中村 秀夫（北教大函館）、皆川 秀紀（北工研）、村山 岳史（北電）

編集委員会 辻 康之（北大触媒セ）、大谷 文章（北大触媒セ）、上道 芳夫（室蘭工大）

討論会 松田 剛（北見工大）、朝倉 清高（北大触媒セ）

渉外広報委員会（国際交流委員会） 多田 旭男（北見工大）

会員増強委員会 多田 旭男（北見工大）[地区会員増強委員長 多田 旭男（北見工大）、地区会員増強委員 村山 岳史（北電）]

オーロラ委員 中村 秀夫（北教大函館）、池田 茂（北大触媒セ）、宮越 昭彦（旭川高専）

触媒学
会報
北海道地区
報

触媒学会北海道地区の今年の歩み

- 2月 2日～3日、北海道支部冬季研究発表会（北海道大学学術交流会館）を共催。
- 4月 21日～22日、第1回北の国触媒塾を北海道大学エネルギー先端工学研究センターにて開催。道内各地より学生29名（10研究室）が参加。大変好評でこの後、触媒学会に5名の学生が新たに入会。
- 5月 25日、地区ニュースNo.113発行。北海道大学触媒化学研究センター長（魚崎 浩平氏）就任挨拶、北海道地区新会員（荒井正彦氏）の紹介、第1回北の国触媒塾の報告、を掲載。
- 6月 21日、札幌地区講演会を北海道大学大学院地環研にて開催。演題：「メソポーラス物質の合成と触媒作用」、講師：辰巳 敬氏（横浜国立大学工学部・教授）
22日、室蘭地区講演会を室蘭工業大学にて開催。演題：「炭素系触媒の開発とその応用」、講師：坂田 祐作氏（岡山大学工学部 精密応用化学科・教授）
- 7月 11日、地区ニュースNo.114発行。第40回オーロラセミナーの予告（特集号）
21日～22日、北海道支部夏期研究発表会（大沼国際サミナハウス）を共催。
22日～23日、第39回オーロラセミナーを大沼国際サミナハウス及びびかんぼの宿大沼にて開催。「北の国触媒塾」で知り合った学生が再会を喜ぶ姿が多く見られ、打ち解けた雰囲気の中で大学、研究室の枠を越えた交流がなされた。
- 8月 4日、札幌地区講演会を北海道大学触媒化学センターにて開催。演題：「Stability and Reactivity of Bulk and Surface Oxygen Species in the System Oxygen/Gold」、講師：Sven L. M. Schroeder氏（ベルリン自由大学・講師）
16日、札幌地区講演会を北海道大学触媒化学センターにて開催。演題：「New Progress in Synthesis of Meso New Progress in Synthesis of Meso New Progress in Synthesis of Meso New Progress in Synthesis of Meso and Micro porous Materials」、講師：裘 式倫氏（中国吉林大学・副学長）
- 9月 12日、地区ニュースNo.115発行。第40回オーロラセミナーの報告、触媒科学からトライボロジーへ（荒木道郎氏）、を掲載。
28日、札幌地区講演会を北海道大学触媒化学センターにて開催。演題：「二酸化チタン光触媒による有機化合物の選択的酸化反応における結晶構造と触媒活性との相関」、講師：横野 照尚氏（大阪大学有機光工学研究センター・助教授）
28日～29日、日本エネルギー学会第37回石炭科学会議（札幌サンプラザ）を共催。
- 10月 14日、第6回市民セミナー「環境問題と触媒化学」（主催）を札幌国際プラザにて開催。
25日、地区ニュースNo.116発行。「XAFS相談室」開設のお知らせ、室蘭工業大学の触媒グループ紹介、を掲載。
27日、室蘭講演会を室蘭工業大学にて開催。演題：「メソポーラスモレキュラーシーブMCM 4の触媒としての可能性」、講師：難波 征太郎氏（帝京科学大学理工学部・教授）
27日、北見地区講演会を北見工業大学にて開催。演題：「On Institute of Chemical Technology and Catalytic Research in Viet Nam」、講師：Luu Cam Loc氏（National Center for the Natural Science and Technology, Institute of Chemical Technology, Viet Nam）
- 11月 14日、札幌地区講演会を北海道大学触媒化学センターにて開催。演題：「新素材開発における産学連携：光触媒材料の基礎研究と実用化研究を例として」、講師：橋本 和仁氏（東京大学先端科学技術研究センター・教授）
- 12月 11日、北見地区講演会を北見工業大学にて開催。演題1：「多孔質材料としてのシリカ」、講師：山本 耕造氏（富士化学株式会社取締役品質保証部長）、演題2：「メタンの接触分解を利用した次世代耐熱性電波吸収体の開発」、講師：田畑 隆司氏（E & C エンジニアリング株式会社開発担当）
15日、地区ニュースNo.117発行。第11回北海道大学触媒化学研究センター討論会「分子触媒の新しい仕掛け」報告、新任教官（鳥本 司氏）の紹介、を掲載。
15日、函館地区講演会を教育大学函館校にて開催。演題1：「遷移金属合金触媒のメタノール水蒸気改質および脱水素に対する新規触媒特性」、講師：岩佐 信弘氏（北大院工学研究科）、演題2：「IT(Information Technology)を活用した理科教員養成教育の改善と化学教育用実験教材の開発」、講師：田口 哲氏（北海道教育大学札幌校）
18日、室蘭地区講演会を室蘭工業大学にて開催。演題：「ケイ素の特性を活かした遷移金属錯体触媒の開発触媒の開発」、講師：辻 康之氏（北海道大学触媒化学研究センター・教授）
27日、地区ニュースNo.118発行。新しい幹事・委員の顔ぶれ、触媒学会北海道地区の今年の歩み、を掲載。

No. 118

当番

多田 旭男

tada@catal.chem.

kitami-it.ac.jp

次回

未定

(文責 岡崎文保)

12月11日に北見で開催された2件の講演に対する企業会員の関心は高かった。珍しいことなのでその理由をお聞きしたところ、興味を惹かれたキーワードは講演概要にあった「シリカ」と「炭素」だそうである。触媒学会主催の講演会なので、演題に「触媒」がないことに躊躇したが、参加者動員には「触媒」を前面に押し出さない方がよいのかな、と感じた次第である。

考えてみれば、触媒反応の舞台は大分前から反応器以外にも広がっている。触媒学会の会員増強には、触媒を反応器以外のところで使っている人を触媒学会の仲間を迎えるのが有効なのか、それとも触媒を反応器だけで使っている人が他の分野に進出して「触媒は異種技術の融合反応をも促進する」ことを知ってもらうのが有効なのか。機会を見つけて会員諸氏のご意見を伺ってみたいと思っている。(文責 多田旭男)